

# 原発が原爆になる

ザポリージャ原発占拠と日本の改憲



小出裕章さん

一切の戦争行為に反対する

二〇二二年二月二十四日、ロシアが国境を超えてウクライナに攻め込んだ。冷戦が終了した二十一世紀のヨーロッパで、国家間の戦争が起きたことは多くの人の予想を超えていたであろう。日本では政府とマスコミが「ロシアが悪い」「プーチンが悪い」との情報を洪水のごとく流し、多くの日本人は「悪い奴が攻めてきたら大変だから、軍備と軍事同盟を強化しよう」との意見に誘導された。しかし、二〇〇一年には、米国がアフガニスタンを武力攻撃し、政権を転覆させた。二〇〇三年にはイラクが大量破壊兵器を作っていると行って米国・英国連合軍がイラクを武力攻撃し、政府を転覆させた。日本も米国の尻馬に乗って自衛隊を派遣した。イラク国内をくまなく探しても大量破壊兵器はなかった。それでも、米国・英国は一言の謝罪もしなかった。もちろん日本も謝罪していない。世界最大圧倒的な大量破壊兵器有国は米国であり、その米国から大量破壊兵器の保有を理由に非難される謂れなど、どこの国にもともしない。「武力によるいかなる現状変更にも反対」などと今、日本の政府とマスコミは言っているが、

今現在、イスラエルが武力を持ってパレスチナに入植地を拡大している。米国も日本も何も言わず、むしろイスラエルを支えている。私は国家が軍隊を保持すること自体に反対であり、今回のロシアによるウクライナへの武力攻撃に明確に反対である。もちろん、米国によるアフガニスタンやイラクへの武力攻撃にも反対した。イスラエルによる武力をもつてのパレスチナへの侵略にも反対である。すべての人間は、それぞれの場でそれぞれの歴史を背負い、かけがえのないその人の生を生きている。どこの国にいる人もみな同じである。殺してよい人間も殺されてよい人間もただ一人として存在しない。戦争とはその人間同士が殺しあう。兵士はみな、相手の兵士は殺してもよい邪悪な存在だと刷り込まれ、殺しあう。殺される人間はもちろん悲惨だが、殺す側の人間も悲惨である。その上、近代の戦争で一番被害を受けるのは非戦闘員である庶民である。いかなる戦争も悲惨であり、どんな戦争もしてはいけない。

原発が攻撃を受ければ打つ手がない

日本の国土面積は地球の全陸地面積の〇・三%に満たな

い。その日本は世界一の大震災国であるが、そこに世界の原発の一〇%以上を建ててしまった。そして、二〇一一年三月十一日に東北地方太平洋沖地震に襲われ、フクシマ事故は起きた。その時点で、熔け落ちた三基の炉心には合計で広島原爆七九〇〇発分のセシウム137が存在していた。日本政府によれば、そのうち一六八発分が大気中に放出されたという。炉心に存在していた量のわずか二%である。そして、その大半は偏西風によって太平洋に向かって流れ、日本の陸地に降ったのは約二〇%である。炉心に存在していたセシウム137の二%、そのうちの二〇%、つまりわずか〇・四%が降っただけで、東北地方、関東地方の広大な地域が「放射線管理区域」の基準を超えて汚染された。「放射線管理区域」とは一般人の立ち入りを禁じなければならぬ放射能汚染地である。しかし、あまりに広大な地域が汚染されたため、国は「原子力緊急事態宣言」を発令して、一般の人々を「放射線管理区域」に棄てた。多くの日本人はすでに忘れさせられてしまっているが、その「原子力緊急事態宣言」は十一年経った今も解除できないまま続いている。そして、一〇〇年経っても解除できない。では、もし原子力発電所が武力攻撃を受け、原子炉が破壊さ

れたらどうなるのか？ウクライナに攻め込んだロシアは、ザポリージャ原子力発電所を攻撃し、占拠し、今はそこを軍事基地にしている。ザポリージャ原子力発電所は百万キロワットの原子炉六基を抱えるヨーロッパ最大の原子力発電所である。その原子炉の中には膨大な放射性物質が存在している。しかし、おそらくロシアは意図的にはザポリージャ原発を破壊しない。なぜなら、そうしてしまえば、ロシア自身が大量の放射能汚染を受けるからである。日本ではフクシマ事故後、原子力規制委員会が作られ、原発の立地・運転を認めるかどうかについての「新規制基準」が作られた。しかし、規制委員会の現委員長は「新規制基準」が武力攻撃に耐えるようにという要求をしているわけではない。仮に原発がミサイル攻撃を受けた場合の被害想定については「審査の中で検討も議論もしていない。仮定すらしていないので答えようがない」と答えている。つまり、原発は武力攻撃に対して何の対策も取っていないし、攻撃を受けたらどうなるか分からないというのである。それなら、炉心に内蔵されている死の灰のほぼ全量が放出されてしまうような事態だって想定できる。そうなれば、日本全体が猛烈に汚染される。アベさんは戦争に備え軍備を強化し、米軍の核兵器を共同運用しようと発言していた。冗談ではない。本気で戦争の心配をするなら、まずは原発を廃止することこそ必要である。

▼小出裕章 (こいで・ひろあき) さん  
1949年東京台東区上野生まれ。東北大学院卒。原子力に夢を抱き、原子核工学を専攻したが、原子力の実態を知るに及び、180度転向。原子力魔絶に半生を賭ける。2015年3月に長年助教を務めた京都大学原子炉実験所(現・京都大学複合原子力科学研究所)を定年退職。その後は長野県・松本市に移住し、晴耕雨読の日々を送る。著書は『フクシマ事故と東京オリンピック』(2019年12月経書房)など多数。

力攻撃を受け、原子炉が破壊さ

戦争を必要とし、戦争を起こしてこそ大儲けする軍需産業

ロシアが武力攻撃に踏み切った理由は、東側世界のワルシャワ条約機構が冷戦後解体されたのに、西側世界のNATOはワルシャワ条約機構に属していた旧東側世界の諸国を次々と取り込んで拡大し、旧ソ連の主要共和国であったウクライナすらがNATOに取り込まれそうになったからである。しかし、ブーチン大統領の思惑は完全に外れた。いまや、中立を保とうとしてきたフィンランドやスウェーデンまでがNATOに加入しようとし、ドイツは再軍備に舵を切った。

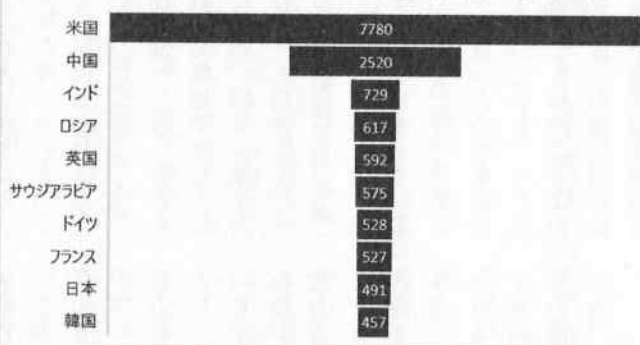
一方、米国は高性能な武器を次々とウクライナに提供し、ウクライナとロシアを互いに闘い続けさせている。米国は自ら軍隊を送らないまま、もともとは同じ国であったロシアとウクライナを闘わせ、徹底的に消耗させようとしている。米国は世界最大の軍事大国である「図表1」。戦争を放棄し、軍隊を持たないと宣言した日本も第九位に入っており、軍事大保有する国である。もちろん、米国の軍需産業は今回の戦争で巨額な利益を得る。ロシアによるウクライナへの武力攻撃が始まって以降、世界最大の軍需産業、ロッキード・マーチン社の株価は一六%も上昇したという。

### 歴史は一つずつの出来事の積み重ねで流れる

第二次世界戦争の悲劇を経験した日本は、戦争を放棄する憲法を持った。憲法前文には「平和を愛する諸国民の公正と信義に信頼して、我らの安全と生存を保持しようと決意した」と書いた。そして九条には「陸海空軍その他の戦力は、これを保持しない」と書いた。武力によって国を守ろうとすれば、いつか戦争が起きる。ロシアによるウクライナへの武力攻撃を理由に軍備と軍事同盟の強化に向かうことは決定的な間違である。真に必要なことは戦争をなくす方向に向かうことである。まずは人殺しのための武器を作り、それによって利益を売る軍需産業をなくさなければならぬ。そして、軍事同盟であるNATOも日米安保条約も廃止し、世界中の国々が軍隊を持たない国になることである。多くの人はそんなのは世迷言だと言う。しかし、それができないなら、また戦争が起きるだけである。

第二次世界戦争において、ナチスによってとらえられ、ダッハウの強制収容所に捕らえられていたドイツ福音主義教会の牧師マルチン・ニーメラーは生きて解放された。そのニーメ

世界の軍事大国10傑（2020年、軍事支出、単位億ドル）



【図表1】

国の一員となっている。それでも、二位の中国から一〇位の韓国までを合わせてもなお米国に及ばない。

もちろんその軍事大国米国は、圧倒的な軍需産業を保有する国でもある。米国の軍需産業は今回の戦争で巨額な利益を得る。「図表2」に世界の軍需産業一〇傑を示す。一〇傑のうち、一位から五位までを米国が独占、一〇傑のうち六つまでもが米国の軍需産業である。また、軍需産業一〇傑までの売上額は二〇二〇年で五五〇億ドル、うち米国の四五社で三〇六〇億ドル、一〇〇傑までの五五%以上を占めている。米国は世界最大、それも圧倒的な軍需産業を

ラーは戦争を防げなかった自らの歴史を振り返って以下のように述べている。

「ナチスがコミュニニストを弾圧したとき、私はとても不安だった。が、コミュニニストではなかったから、何の行動も私は行わなかった。その次、ナチスはソシアリストを弾圧した。私はソシアリストではないので、何の抗議もしなかった。それから、ナチスは学生・新聞・ユダヤ人と順次弾圧の輪を広げて行き、その度に私の不安は増大した。が、それでも私は行動しなかった。ある日、ついにナチスは教会を弾圧して来た。そして私は牧師だった。が、もうその時はすべてがあまりにも遅すぎた。」

先の参議院選挙の投票日前々日に、憲法を改悪し、日本が戦争をできる国にしようとしたアベさんが銃撃されて死亡した。アベさんの功績が二日間にわたって電波をジャックし、選挙では自民党が大勝、改憲勢力が憲法改悪の発議に必要な三分の二を十分に超えた。歴史は何気ない一つずつの出来事の積み重ねで流れる。多くの日本人はそれに気づかないままだが、日本は今、一步一步戦争に向かつて落ちていつている。第二次世界戦争の時もそうであった。気づいた時には、「戦争が廊下の奥に立っていた」（渡辺白泉）という状態になっていて、戦争を止めることは誰にもできなかった。今、日本で生きていく多くの人も戦争など望んでいないであろう。しかし武力で国を守ろうとする道を進むなら、いずれ日本も戦争に巻き込まれる。

会社	国	兵器売金額 (兆円)*
Lockheed Martin Corp.	米国	7.9
Raytheon Technologies	米国	5.0
Boeing	米国	4.3
Northrop Grumman Corp.	米国	4.1
General Dynamics Corp.	米国	3.5
BAE Systems	英国	3.2
NORINCO	中国	2.4
AVIC	中国	2.3
CETC	中国	2.0
L3Harris Technologies	米国	1.9

\*The SIPRI Top 100 arms-producing and military services companies in the world, 2020より作成

\*) 135円・ドルで換算

【図表2】

## 戦争に落ちた日本の国 アベさん銃撃について思うこと

七月八日、参議院選挙投票日の前々日、アベさんが銃撃を受け、死んだ。その時に私は以下の文章を書いた。そして、私の心配が残念ながら当たり、マスコミはアベさんの功績を称え続けた。それが選挙の投票にどれだけ影響したのかは分からない。でも参議院選挙では自民党が大勝、改憲勢力は三分の二の議席を超えた。

戦争は人間同士が殺しあう。また近代の戦争では、一番被害を受けるのは非戦闘員である庶民である。戦争はどんな理由があってもしてはならない。でも、アベさんには日本での最高位の勲章「大勲位菊花章頸飾」が与えられ、秋には国葬もするそうだ。アベさんも自民党も「悪い奴に攻めてこられたら大変だ」として着々と軍備を強化し、これからも憲法を改悪して日本を戦争のできる国にしようとしている。そして今や多くの日本人がそれを支持している。危うい時代になったと心が沈む。

さんにはこれ以上の悪行を積む前に死んでほしいとは思ったが、殺していいとは思っていなかった。悪行についての責任を取らせることができないまま彼が殺されてしまったことをむしろ残念に思う。

多くの人が「民主主義社会では許されない蛮行」と言うが、私はその意見に与しない。すべての行為、出来事は歴史の大河の中で生まれる。歴史と切り離して、個々の行為を評価することはもともと誤っている。そもそも日本というこの国が民主主義的であると本気で思っている人がいるとすれば、それこそ不思議である。

国民、特に若い人たちを貧困に落とし、政治に関して考える力すら奪った。民主主義の根幹は選挙だなどと言いなから、自分に都合のいい小選挙区制を敷き、どんなに低投票率であっても、選挙に勝てば後は好き放題。国民の血税をあたかも自分のカネでもあるかのよう、自分と身内にばらまいた。原

アベさんに対する銃撃について  
2012年7月9日

アベさんが銃撃を受けて死んだ。悲しくはない。アベさんは私が最も嫌う、少なくとも片手で数えられる五人に入る人だった。アベさんがやったことは特定秘密保護法制定、集団的自衛権を認めた戦争法制定、共謀罪創設、フクシマ事故を忘れさせるための東京オリンピック誘致、そしてさらに憲法改悪まで進めようとしていた。彼のしたことで、しようとしてきたことはただただカネ儲け、戦争ができる国への道づくりだった。

アベさんは弱い立場の国・人たちに対しては居丈高になり、強い国・人たちに対してはほとんど卑屈になる最低の人だった。朝鮮を徹底的にバツシン力力など、どれほどの血税を注ぎ込んで無駄にしたか考えるだけでもばかばかしい。

日本で造られた五七基の原発はすべて自由民主党が政権をとっている時に安全だと言って認可された。もちろん福島第一原発だって、安全だとして認可された。その福島原発が事故を起こし、膨大な被害と被害者が出、事故後十一年経った今も「原子力緊急事態宣言」が解除できないまま被害者たちが苦難にあえいでいる。

それでも、アベさんを含め自民党の誰一人として、そして自民党を支えて原発を推進してきた官僚たちも誰一人として責任を取らない。もちろん裁判所すら原発を許してきた国の組織であり、その裁判所は国の責任を認めないし、東京電力の会長・社長以下の責任も認めない。どんな悲惨な事故を起こしても誰も責任を取らずに済むということ、これをフクシマ事故から学んだ彼らはこれからもまた原子力を推進すると

グし、トランプさんにはこびへつらつて、彼の言いなりに膨大な武器を購入した。彼は息をするかのようには嘘をついた。森友学園、加計学園、桜を観る会、アベノマスク……彼とその取り巻きの利権集団で、国民のカネを、あなたも自分のカネでもあるかのようには使い放題にした。それがばれそうになると、丸ごと抱え込んだ官僚組織を使って証拠の隠ぺい、改ざん、廃棄をして自分の罪を逃れた。その中で、自死を強いられる人まで出たが、彼は何の責任も取らないまま逃げおさせた。私は彼の悪行を一つひとつ明らかにし、処罰したいと思ってきた。

私は一人ひとりの人間は、他にかげがえのないその人であり、殺していい命も、殺されていい命も、一つとして存在していないと公言してきた。アベ言っている。さらに、これからは軍事費を倍増させ、日本を戦争ができる国にしようとする。

愚かな国民には愚かな政府。それが民主主義であるというのであれば、そうかもしれない。しかし、それなら、虐げられた人々、抑圧された人々の悲しみはいつの日か爆発する。今回、アベさんを銃撃した人の思いは分からない。でも、何度も言うが、はじめから「許しがたい蛮行」として非難する意見には私は与さない。

心配なことは、投票日を目前にした参議院選挙に、アベさんが可哀想とかいう意見が反映されてしまわないかということだ。さらに、今回の出来事理由に、治安維持法、共謀罪などがこれまで以上に強化され、この国がますます非民主主義的で息苦しい国にされてしまうのではないかと私は危惧する。

「講演」 小出裕章

# 3・11福島原発事故から11年

## 脱炭素・原発再稼働・小型原発を問う

六月二十六日、学校法人「河合塾」

上本町校（大阪市）で、小出裕章さん（元

京都大学原子炉実験所助教）の講演「3・

11福島原発事故から11年 脱炭素・原

発再稼働・小型原発を問う」が行われ

た。福島原発事故時まだ幼かった塾

生たちのために、前半は福島第一原発

の過酷事故の実態、現在も敷地内・敷

地外で続く苦闘、会場の参加者全員が

亡くなる一〇〇年後にも事故は収束で

きないことなどが話された。その後、

この間、国内だけでなく、世界的に話

題となつている「脱炭素化」の問題、

なぜ地球温暖化の原因が二酸化炭素の

増加のせいとされるか、その背景など

について話された。以下は、その後半

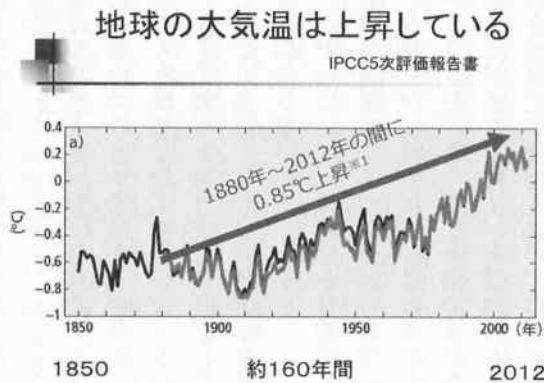
部分を要約したものである。

（構成＝尾崎美代子、神坂直樹）

### 地球温暖化の原因は二酸化炭素の増加か？

今日では日本中、世界中の人たちが「脱炭素化」という言葉に踊らされています。地球が温暖化している、その原因は二酸化炭素だ、だから二酸化炭素を出さないようにしよう、「脱炭素社会」を目指そうと。会場のみなさんもそう思っているかもしれない。でもそれは本当なのかという話をします。

IPCC（気候変動に関する政府間パネル）の第五次評価報告書があります。一つは、一八八〇年位から約一六〇年間、一貫して地球の温度が上がつて大変だと報告し（図1）、もう一つは、一九五八年から約五〇年間で、地球の大気中の二酸化炭素の量がハワイ



【図1】地球の大気温は上昇している

のマウナロアと南極で取ったデータではほとんど増加していると報告している（図2）。

これらのデータを前に、原子力を推

進する人たちは「温暖化の原因は二酸化炭素だ、原子力は二酸化炭素を出さないから原子力を使おう」と主張して

いる。しかし、みなさん、考えてくだ

さい。二酸化炭素が温暖化の原因だか

ら悪いといわれるが、では原発が出す

「死の灰」はいいのですか？化石燃料

を燃やせば二酸化炭素が出ます。一方、

原子力の原料のウランを燃やしたら、

それ自体では二酸化炭素は出さないが、「死の灰」が出ます。

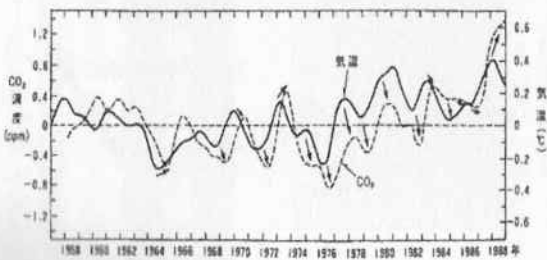
でも、二酸化炭素は地球のために猛烈に必要なものです。二酸化炭素がなければ植物は生きられない。植物は「光合成」という反応で、二酸化炭素を摂り入れてやっと生きています。植物が生きられなければ、動物も生きられない。二酸化炭素がなければ、地球上の生命は生きられない。それほど大切なものです。

一方、核分裂生成物である「死の灰」が放出する放射線は、どんなに微量でも生命体に有害であることがわかっています。生命にとって必要な物質である二酸化炭素が悪く、生命にとって必ず危険を伴う死の灰は良いという主張は、初めから間違いだと思っていただかなければなりません。

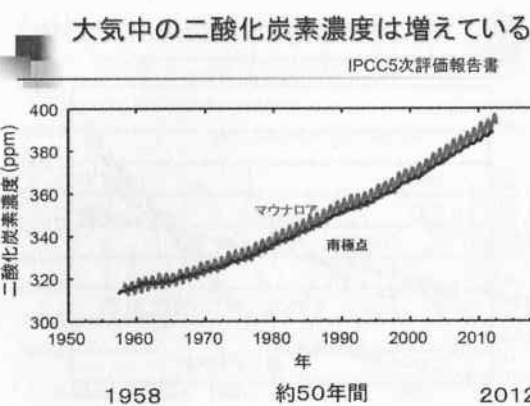
### 気温の上昇が原因で二酸化炭素濃度増加は結果

もう一歩踏み込んで考えると、二酸

### 本当は気温の上昇が原因で、二酸化炭素の濃度増加は結果

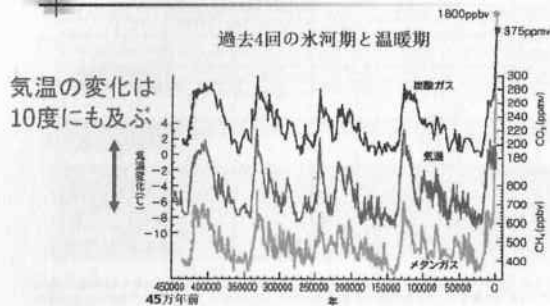


【図3】本当は気温の上昇が原因で二酸化炭素の濃度増加は結果



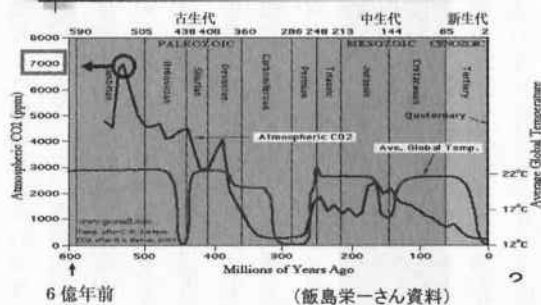
【図2】大気中の二酸化炭素濃度は増えている

人類の活動と関係なく、  
大気温も二酸化炭素濃度も変化してきた。



【図6】 人類の活動と関係なく、大気温も二酸化炭素濃度も変化してきた

地球の大気温度も大気中の二酸化炭素  
濃度も大きな変動があった。  
それでも生物はちゃんと生きてきた。



【図7】 地球の大気温度も大気中の二酸化炭素濃度も大きな変動があった。  
それでも生物はちゃんと生きてきた

は、なんでもかんでも温暖化のせいにしてしまう。最近増えている大型台風

**温暖化と「異常気象」は無関係**

そして温暖化が大変だという人たちは、なんでもかんでも温暖化のせいにしてしまう。最近増えている大型台風

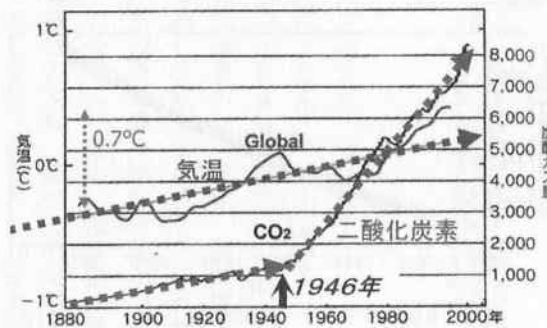
酸化炭素が増え、冷たくなれば二酸化炭素が減るということは、「図6」からわかります。  
そして氷河期と温暖期の間は気温の変化が10℃にも及んでいる。今、IPCCほか世界中の人たちが問題にしているのは、100年で0.1℃という温度の変化です。冗談ではない。地球は10℃という温度変化をたびたび

繰り返してきた星なのに、なぜ今、0.1℃の温度が大変なのか、ちゃんと考えなくてはいけないと私は思います。  
【図7】のデータは、六億年前から現在にいたる歴史の表です。現在は新生代、その前は中生代、その前は古生代といていた。今地球上の二酸化炭素濃度は約400ppmになろうとしているところですが、過去に地球上の

れが二酸化炭素です。つまり温めると二酸化炭素が液体から出てくる。地球上にある二酸化炭素のほとんどは海にある。地球が温かくなれば、海から大気中に二酸化炭素が出てくるのは当たり前のことです。  
因果関係をいうならば、二酸化炭素が増えて地球が温暖化するのではなく、地球が温暖化したから二酸化炭素が増

の温度を推測するデータは火山あり、推定には誤差もありますが、地球はずっと昔から寒冷化してきたが、一八〇〇年代初めから急激に温暖化してきたということを示しています。二酸化炭素が温暖化の原因だというより、もっとはるか以前から地球の温暖化は始まっているんだということ

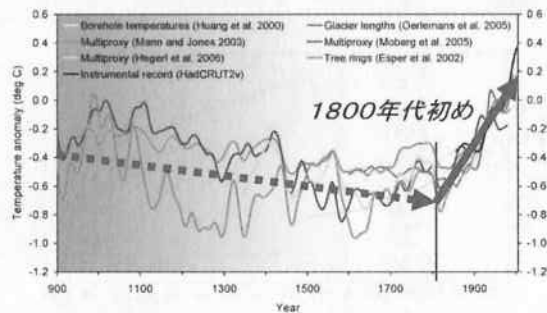
**二酸化炭素の急激な放出は20世紀後半**



【図4】 二酸化炭素の急激な放出は20世紀後半

えていった、そういう因果関係の方が正しいということが、これらのデータから裏付けられます。  
【図4】は原子力推進側、あるいは二酸化炭素が問題だという人たちが作ったデータですが、ずっと昔から温度が上がってきたことを示している。一方、二酸化炭素の方がどうかというと、確かに昔から増えてきてはいるが、劇的に増えたのは一九四六年からです。戦争が終わり、これからエネルギーを沢山使う社会に入ろうとした時期で、化石燃料を沢山燃やし、二酸化炭素が大気中に出てきたということです。  
もっと遡ってどうかというと、地球の温度を推測するデータは火山あり、推定には誤差もありますが、地球はずっと昔から寒冷化してきたが、一八〇〇年代初めから急激に温暖化してきたということを示しています。二酸化炭素が温暖化の原因だとい

**地球大気温度の上昇は19世紀初めから**



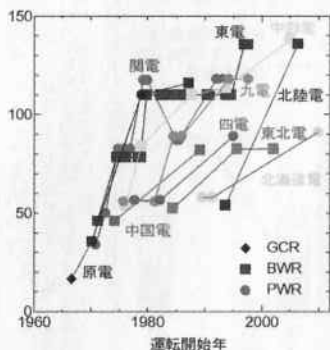
【図5】 地球大気温度の上昇は19世紀初めから

**地球の大気温度が高いとき  
二酸化炭素濃度は上昇**

昔は地球が氷河期になって、今は温暖期です。地球には暖かい時と冷たい時があった。過去四回氷河期と温暖期をくりかえしてきたが、温かくなれば二

酸化炭素濃度がどれくらいあったかという、古生代では七〇〇ppm、だった。それでも生物はちゃんと生きていた。もちろん絶滅した生物や、逆に新しく出てきた生物はあるが、猛烈な濃度の二酸化炭素があっても地球は生命が宿れる星だったので。温度もそうです。地球の平均気温は12℃くらいだろうと言われてますが、12℃というときもある。氷河期と温暖期の差で10℃くらいあり、新生代、中生代のとき、あるいはもっと前には地球の温度がもっと高いときがあった。それでも生物は生きてきた。なぜ、いま温度が0.1℃上がったからといって大変だとなるのか、もう一度考えてみるべきです。

電気出力 [万kW]



原発は一貫して大型化の歴史を辿ってきた

【図9】原発はスケールメリットを求めて大型化してきた

原発はスケールメリットを求めて大型化してきた。もともと原発の発電単価は高かったし、小型化すれば、一層高くなって生き残ることはできない。

小型炉は、構想は昔からありました。例えば「4S炉」(Super-Safe, Small & Simple)の頭文字をとったナトリウム冷却高速炉(を東芝が中心となって、一九九〇年代、人口の少ない極地で造ろうとしたが、一基も出来なかった。東芝はいつまでも原子力に固執したために膨大な負債を抱え、原子力から撤退、そればかりか倒産寸前になっています。ほかに小型モジュール炉などといわれ

小さな原子炉を沢山造ろうとしたが結局どれひとつ出来ていない。そもそも原発はスケールメリットを求めて大型化してきたのです。その歴史を「図9」に示します。日本の九電力会社のうち、関西電力を除くすべての電力会社は一方的に大型化の道をたどってきました。唯一関西電力だけが、一九八五年に小型の原発を造っているように見えますが、これは、高浜原発で九十万キロワットの原発を四基造り、大飯原発で一二〇万キロワットの原発を四基造る計画が重なり、大飯1、2号機が動いた後に、高浜3、4号機が動くことになったからです。結局、日本の原子力開発は一貫して大型化の道をたどってきました。それでも原発の発電単価は水力、火力に比べて高くなってしまっていました。いままさ、どこのメーカーが小型炉を造り、それを電力会社がどこに設置するのでしょう？ 小型炉の構想など無知な政治家の頭の中にしかありません。

原子力が二〇一〇年度に発電した電気は、福島事故が起きるまでの一年間で、全部の電力の約三割を賄っていた。電力会社は「原子力発電はすでに電力の三割を発電している。これを止めてしまったら発電する」と脅してきた。しかし二〇一〇年度の火力発電所の設備利用率(稼働率)は五割にも満たなかった。つまり火力発電所を半分以上停めて原子力を猛烈に動かしていた。原子力を止めても火力発電所の稼働率は七〇%にしかならない(「図10」)。それほど火力発電所はあり余っていた状態だった。

福島事故が起きて、危険性は事実として示されたわけですから、原子力を止めて、他の電力、再生可能電力に移行しよう、国がちゃんと手当するのが当然と思うが、まったくやらない。ずっと原子力にしがみつこうとしてい

**原発がなくとも困らなく**

も温暖化のせいだと、マスコミも宣伝し、多くの人もそう思い込まされていく。しかし、果たしてそうだろうか。「図8」は、最近の台風データのデータです。台風が日本に上陸したときの気圧が書いてあるが、最近巨大化した台風は気圧が一〇〇〇、九七〇、九六〇ヘクトパスカルになってきているという。し

かし過去にも九〇〇ヘクトパスカル台の台風は沢山来ていた。温暖化が問題になるずっと前から地球には巨大台風が来ていたのであって「温暖化したから台風が大型化し大変だ」と言うのはまったくちがうと思います。これほど地球温暖化と二酸化炭素の問題では嘘が多いと私は思います。

最近になって言い出したのは「小型炉なら安全だ、小さな原発を沢山造ればいい」です。本当に呆れます。国と電力会社は、嘘をついて、それがばれると次の嘘をつくという形で、今日まで来た。しかし、それらは全部嘘でした、少なくとも間違いでした。

**台風は温暖化のせいで巨大化していない**

2011年の上陸台風	最低気圧	上陸地点	台風中心位置	死者・行方不明	被害総額
台風1号(アーサー)	998	三重県津市	1,500	0	
台風10号(フランシスコ)	970	兵庫県神戸市	970	1	
台風19号(タロウ)	965	兵庫県神戸市	978	2	
台風15号(ファラオ)	955	千葉県千葉市	960	3	千葉県 農林水産省
台風12号(ハビ)	915	千葉県千葉市	920	101	死者 101人、行方不明 101人

2010年	最低気圧	上陸地点	台風中心位置	死者・行方不明	被害総額
台風11号(チュービー)	915	千葉県千葉市	920	14	千葉県 農林水産省

歴史的に最大規模	最低気圧	上陸地点	台風中心位置	死者・行方不明	被害総額
台風1号(アーサー)	998	三重県津市	1,500	0	0.056兆円
台風10号(フランシスコ)	970	兵庫県神戸市	970	1	0.056兆円
台風19号(タロウ)	965	兵庫県神戸市	978	2	0.056兆円
台風15号(ファラオ)	955	千葉県千葉市	960	3	0.056兆円
台風12号(ハビ)	915	千葉県千葉市	920	101	0.056兆円

昭和初期～中期(1930～1950年)に会社、武蔵に巨大台風が上陸し、死者は、千数百人、被害総額は千億円に達した。台風は決して悪魔の力で、気象が「悪魔の力」は無い、自然の力が原因です。

【図8】台風は温暖化のせいで巨大化していない (飯島栄一さん資料)

**原子力は何のため必要か**

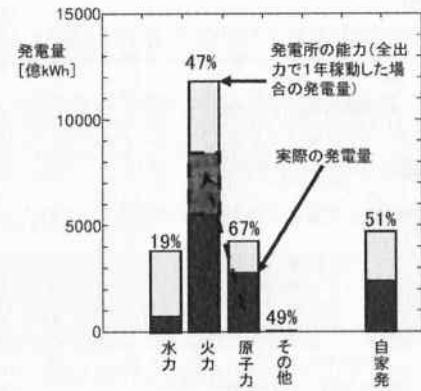
ましてや原子力を推進してきた人たちは数限りなく嘘をついてきました。「原子力は未来の無限のエネルギー」と言い、私も最初それを信じてました。しかしそれはまったく嘘だった。原子力の燃料ウランは化石燃料よりはるかに少なく、すぐになくなってしまふ。原子力は安いともいわれてきた。でも、それも嘘でした。電力会社の経営データを使得って計算すれば、もともと原発が一番高価でした。おまけに福島事故が起こったため、その事故処理のため

めに七〇〇八〇兆円かかるだろうといわれている。それも、日本の法令を反故にして、人々を被ばくさせ続ける状態にさせておいて、そのうえで七〇〇八〇兆円かかると言っています。おまけに原発から生み出した「死の灰」の処理、これから一〇万～一〇〇万年お守りしなければならない費用を考えると、話にならないほど高いんです。安全だというのも福島原発事故が起きて嘘とわかった。そして、今は「原発は地球温暖化防止に役立つ」と言われているが、これも嘘とわかりました。

**小型炉なら安全か**

### 原発がなくても困らない

(二〇一〇年度、フクシマ事故が起きる前、日本の電力の三割は原発が発電し、原発を止めると停電してしまつたと脅されていた時)



【図10】 原発がなくても困らない

た。

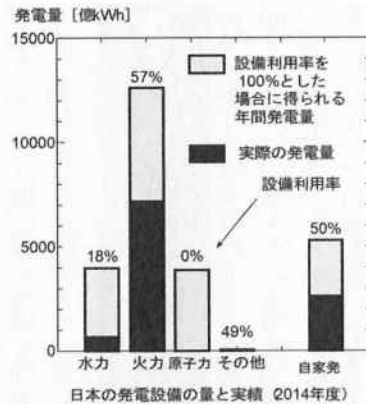
二〇一四年度原子力発電所は一基も動いていなかった。その時火力発電所は五七%動かした。二〇一〇年度四七%しか動かさなかった火力発電所を、ちよつと動かしただけで、電力は賄えた(【図11】)。

今でも原子力なんか使わなくても困らない。それなのに「原子力を止めた故を起こした。それでもなお電気が欲しいと言いつけるのでしょうか?」よく考えるべきです。

今、日本中、世界中が二酸化炭素による地球温暖化が一番危機だ、なんとか防がなくてはと、多くの人たちがこのことばかりに目を向けさせられている。でも原子力もとても悪い。原子力は核分裂する場合には二酸化炭素は出さないが、かわりに「死の灰」がつくられる。でも原発もじつは二酸化炭素を膨大に出している。原子力の燃料のウランを鉱山で採掘する際も沢山の機械を動かすし、それを原子力発電所で燃えるようにするために濃縮とか、さまざまに加工する際にも二酸化炭素を出している。原発そのものもコンクリートと鋼鉄の塊で、それを造る際にも膨大な二酸化炭素を出している。運転するときも、ましてや福島事故の後始末をするにも一〇〇年ではきかない、長い間にどれだけの二酸化炭素を

### 原発ゼロでも電気は足りる。

(二〇一四年度、フクシマ事故によって、日本国内のすべての原発は停止し、1kWh以下の発電もしなかった。でも、発電設備の設備利用率は四一%にしかならなかった。原発など即刻全廃しても困らない。)



【図11】 原発ゼロでも電気は足りる

ら困る」と電力会社や国が脅しをかけている。事実としては困らない。そもそもと大切なことは、原子力がなくてもちゃんとやれるように、国が政策的にやるべきだったのです。

### 大量生産・大量消費の見直しを

「【図12】」は、夜の人工衛星から地球を見た時の写真です。日本は不夜城の

放出するかわからない。核のゴミを一〇万年、一〇〇万年お守りするにも、どれだけのエネルギーがかかり二酸化炭素を出すか、想像するだけでも馬鹿馬鹿しいことになってしまふ。もし地球の温暖化は二酸化炭素が引き起こしているとして、二酸化炭素を減らさなければいけないというなら、原子力だけはやっていけない。

おまけに、実はそれも間違えていませう。確かにこの地球はさまざまな危機に直面している。大気汚染、森林破壊、砂漠化、環境ホルモン、マイクロプラスチック、放射能汚染、さらには貧困、戦争などの猛烈な危険が山ほどある。それらはいずれも人間の限界のない欲望の下、大量生産、大量消費をしてきた結果です。確かに地球温暖化も脅威の一つかもしれない。そしてその原因の一つに二酸化炭素があるかもしれない。でもそれだけのことで、地球上のほとんどの脅威は二酸化炭素とはまったく関係ない。なのにほとんど



[http://veimages.gsfc.nasa.gov/1438/earth\\_ligh](http://veimages.gsfc.nasa.gov/1438/earth_ligh)

【図12】

ごとくきらきらと浮かび上がっている。なぜこんなに明るくしておかなくてはいけなのかな。そんなことのために電気が必要なのか? 明るくすることが「幸せ」なのか? 私たちは一〇〇年間以上エネルギーがあれば幸せで豊かに生きられるとずっと信じてきて、原子力に手を染め、挙句の果てに福島の事

の人たちは二酸化炭素だけが大変だと思われ、脱炭素社会「低炭素社会」などという標語が日本中、世界中にいきわたってしまふという状態になっている。本当に必要なことは、低炭素社会を作ろうなどとは違って、エネルギーを無限に使うとしてきた私たちの大量生産、大量消費の生活様式そのものをやめようということだと思います。今多くの人たちが二酸化炭素だけに目を奪われていくこと、そのことこそ最大の脅威だと思います。もつと事実をきちんとみて、私たち人間も、地球で生きられるようになをすべきかと考えて欲しいと思いますし、原子力に間違って夢をかけて生きてきた私としては、なんとしても原子力に引導を渡したいと思っています。みなさんもしっかりと考えていただきたいと思っています。ありがとうございました。

「二〇二二年六月二十六日、河合塾上本町校(大阪市)にて」